



社会福祉法人 村 山 苑

村山苑だより

*Photo by Hiroyuki Oda*

「新年を迎えて」

理事長 品川 卓正



新年あけましておめでとうございます。地域の皆様をはじめ、法人役員皆様方のおかげをもちまして、法人内各施設は無事新年を迎えることができました。改めて感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症は発生から三年が経過しましたが、今なお収束せず、変異を繰り返しながら感染者数を増減させる状況が続いています。また、昨年二月二十四日のロシアによるウクライナへの軍事侵攻は、世界の安全保障の秩序を大きく崩しました。この軍事侵攻により、世界にエネルギー確保や小麦等の穀物の確保に大きな影響が生じました。日本でもエネルギー確保の先行きの不透明さから石油価格が高騰し、施設が消費する燃料費が昨年に比べて大幅に増加し、また食料品も十月から多くの品目について値上げされ、施設運営が非常に厳しい状況になっています。

今年度を初年度とする中期計画に取り組んでいます。計画の策定の根拠は法人が経営する各施設の事業継続です。昨年は経営会議において介護保険事業と保育事業について課題を整理しつつ検討を進めてきました。特に介護保険施設の経営状況の好転を目指す取り組みについて検討を重ね、保育施設については園児の確保、保育内容の充実、保育の質の向上及び三歳児の保育園離れ（教育費の無料化による）対策を課題に挙げています。何れについても、今年度中には一定の方向性を示したいと考えています。この課題解決に向けての方向性を中期計画に落とし込み、安定した法人施設経営を目指したいと思えます。

また、人材確保については、今後ますます厳しくなることが予測されます。今年は趣向を変えて、社会福祉法人・福祉の仕事の魅力発信に工夫を凝らした確保策を考えてみたいと思います。短期的には外国人確保策を、長期的には、引き続き、高校や中学校との交流をさらに進め、先生や生徒に福祉の現場を理解してもらうことに努力したいと思えます。また、研修等の充実や職場環境の改善に努め、育成・定着に結び付けたいと考えています。

そして、今年も、法人・施設を取り巻く経営環境を見据え、安全で、安心できる法人施設経営を目指して努力するとともに、社会福祉法人の使命として、地域公益活動への取り組みを具体的に示し、地域住民の方々と共に進めていきたいと思います。

令和四年度 法人研修について

研修担当施設長 右田 尚子

今年度、村山苑では法人内職員研修を下記の予定で計画し実施しています。
この二年ほどはコロナ禍の感染拡大防止での日程変更や人数制限等工夫をしながらの実施でし

研修名	実施・予定日	参加人数	対象者
ステップアップ研修	6月10日(金)	12名 (担当者含)	障がい者雇用(非常勤) 各施設担当者
フォローアップ研修	9月28日(水)	15名	新任職員研修参加者
栄養士研修 看護師研修	10月12日(水) 10月24日(月)	7名 8名	各施設栄養士 各施設看護師
テーマ別研修 フォローフォロー研修	11月7日(月) 11月16日(水)	28名 17名	各施設より複数名 勤続5～10年の職員
福祉サービス研修	1月18日(水)	—	各施設より複数名
新任研修	3月29日(水) 30日(木)	—	令和4年度中途採用者 令和5年度採用予定者

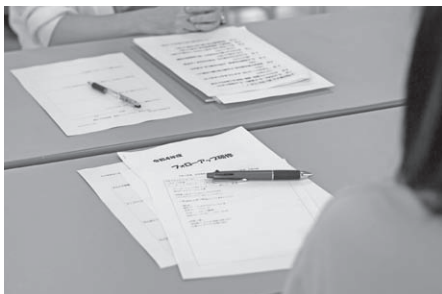
たが、その都度状況に合わせてサービスの質の向上に向けて、また安全な業務の実施のために、施設ごとの研修のほかに法人全体での研修を計画的に実施しています。
以下簡単に紹介いたします。



- 年度の一番初めの研修は、六月のステップアップ研修です。特別支援学校等からの入職者が各施設で頑張っています。周囲の人とコミュニケーションをとりながら自信を深めています。同じ立場の仲間との繋がりをづくり、次への課題を確認することで、さらなるステップアップに繋がっています。
- フォローアップ研修は、職種は違えど同期の仲間が入職後半年ぶりに集まり、仕事の悩みや将来への希望など普段職場ではできないような話をし、同じ思いを分かち合うことで、明日への仕事の活力に繋がっています。
- 栄養士・看護師の研修では、違う施設の同職種が一同に介し、情報交換や共有した内容を各施設に持ち帰り、業務の工夫に繋がっています。
- テーマ別研修は、毎年テーマを決めて実施しています。今年度は防災士を講師にお呼びし、各施設での備え、地域との連携の大切さを学びました。
- フォローフォロー研修は、後輩の指導、結婚や引越など生活の変化もある中での仕事の継続について等、中堅ならではの悩みや喜びを話し合える場となっています。

- 福祉サービス研修は、各施設のサービス向上の取り組みを発表しあい、職員同士はもちろん理事や評議員の方々にも聞いていただきます。各施設の取り組みを聞き、日々の職員の努力を知ること、自身の業務へ向かう気持ちを新たにすることができています。今年度も感染防止対策として、半数の五施設の発表を予定しています。
- 新任職員研修は、法人の歴史や基本理念、規程や社会人としてのマナー、虐待防止などを中心に、村山苑に新しい仲間を迎えるにあたり志を揃え丁寧なサービスが提供できるように例年二日間での開催を予定しています。各施設の見学も実施し、村山苑の一員としての意識を深めて頂きます。

法人内の研修は知識の学びはもちろんですが、同じ法人で働く職員同士が法人理念の実現に向けてひとつになれるよう、顔を合わせ、意見を交わすことを大切にしています。今後ともに学び、刺激を受け合い繋がりが合うことで、村山苑全体のサービス向上に繋がっていききたいと思っています。



災害時における地域との連携

さつき荘 施設長 田島 博志

災害発生時の対応として利用者・園児・職員を守り、被害を最小限に留め、事業を継続し早期に復旧を図ることが重要です。そしていち早く余力を確保し、地域に対してできる限り貢献できるような地域課題の把握や体制づくりを進めていくことも必要です。

富士見町二丁目にある村山苑の六施設、東京都同胞援護会の三施設、隣接するひばりが丘自治会の九者で災害時地域相互応援協定を締結しています。主に

各施設で火災が発生した際の継走連絡、応援駆け付けを目的としていますが、地域住民が被災した際に各施設からどんな支援が提供できるかを繰り返し検討しつづけています。

九月二十七日にはコロナ禍で実施を見合わせていた合同訓



練を三年ぶりに実施しました。

さつき荘での出火想定で行いましたが、継走連絡がうまくいかずに若干混乱しました。実際にはもっと滞

ることも予想されるためシミュレーションとしては得るものも

多かったですと思います。他施設の出入口や避難場所を把握する、非常連絡

が回ってきた時の対応と動きを確認する、各施設の防災担当者、職員、地域住民が顔見知りとなり、つながりを

強めることが大切だと感じました。

また十一月七日、令和四年度のテーマ別研修では防災士で茗溪学園危機管理部の養田圭二様にご講演いただきました。養田様には一般的な防

災知識だけではなく、ピンポイントな地域情報とデータ、その分析を交えて地域課題を詳しくご説明いただき大変参考になりました。各施設、

本当に実効性のある事業継続計画（BCP）の策定に苦慮していますが、被害想定を根拠が明確だと対策も具体的にイメージできるものだと感じました。

「村山苑の各施設・園がいち早く業務を再開さ



せ通常体制へ移行することが何よりの地域貢献になる」という言葉が印象に残りました。また、法人が地域に対して提供できるものは何かを検討することも大事だが、要は普段からの顔つなぎが最も重要で、地域住民と顔の見える関係を作っておくことが非常に有効であるとのことです。日ごろ地域の方と関わる業務の一つ一つが災害対策に関わってくるということを意識したいと思っています。

自然災害のみならず、防犯・事故防止・孤立・ゴミ問題など地域の生活課題は様々であり、村山苑も地域住民の一員として連携しながら相互の応援体制を築いていくために今後も尽力していきます。



研修参加報告

社会福祉法人経営青年会 全国大会に参加して

第2ハトホーム 相談員 鈴木 野生

十月十三〜十四日の二日間、福岡県にて開催された第二十五回社会福祉法人経営青年会 全国大会に参加させて頂きました。全国社会福祉法人経営青年会は、次代の社会福祉法人経営を担う人材の育成・資質向上に努めることを目的に活動を推進しており、五十歳未満の会員で構成されている組織です。コロナの影響によりここ数年はオンラインでの研修が続いていましたが、今回ようやく会員の方々に直接お会いすることができました。



に、全国青年会会長と福岡市長 高島宗一郎氏との対談、厚生労働省福祉基盤課長 宮下雅行氏による基調報告、トリゼンホールディングス株式会社代表取締役社長 河津善博氏とJRR九州営業部営業課担当部長 加藤邦忠氏による講演でした。また、分科会ごとに会員によるテーマ別発表もありました。

二日間の研修を通して、福祉に関する内容だけでなく様々な分野で活躍されている方の話を聞くことができましたが、順風満帆に今に至る方はおらず、それぞれの悩みや苦労、挫折を乗り越えて、輝かしい今があるのだと感じました。また、共通していたことは、自分（達）だけでは限界があるということ、周囲の協力を得て巻き込んでいく必要があるということ、ということです。そういった観点から、繰り返し言われている他事業所との連携や地域活動を積極的にを行い、さらに地域に根差した法人となるよう努めていかなければならないと感じました。

また、参加者全員が五十歳未満でしたが、ほとんどの方が管理職につかれており、経営、人材育成などに携わる方でした。そういった人事が若手職員にとっては希望となりモチベーションになると思いますし、そういった立場に身を置くことで学んでいけることもあるのだろうと思いました。村山苑が今後さらに発展していくためにも、先にも述べた他事業所との連携や地域との繋がりが、そして若い世代の活躍が不可欠だと思います。自分自身も今回の経験を活かし、日々の業務に前向きに取り組みんでいきたいと思いました。

SDGsって

そんなに大事だったの？

(SDGsを理解して保育を面白くする) 研修を受けて

ひよし保育園 保育士 安生 祐子

SDGsを念頭に置くと保育についてさらに考える視点がひろがってくるということを学びました。例えば、夏に楽しい水遊び。そこから楽しくなりすぎて、少々水の無駄遣いになることが起きると「お水を大事にしないとなくなっちゃうよ」という大人の声かけ。よくあることです。そんな時「さて水がなかったら生活はどうなる？」ということに疑問を持たず、そこから子どもたちの気づ

きや新たな疑問が出てきてどんどん広がっていきます。それを子どもも自らの考えや行動を尊重しながら、見守り援助をしていくことで大人も新たな発見に出会えると思います。様々なことを園でみんなと一緒に体験し、心を豊かに出来るよう、これからも子ども達の発見やちいさな疑問にも目を向け、SDGsを頭に入れながら、子どもたちと一緒に探究し楽しく過ごしていきたいです。



施設通信

つぼみ保育園

『地域のひとの出会い』

保育士 竹村 麻子

つぼみ保育園では、月に一回中央公園に行き『出前保育』を行っています。公園で遊んでいる地域の方に声をかけ、親子で絵本や紙芝居などを一緒に楽しんでもらいながら保育園の事を知ってもらえる場となっています。

以前は園児と一緒に散歩がてら公園に行き子ども達が手遊びなどをして一緒に楽しんでいました。もつと、地域の方の声を聞きたい。交流だけでなく日頃困っていることなど子育ての話を気軽に出来るようになれたらということで数年前から保育士だけで、そして顔見知りになれるように同じ顔ぶれで出かけるようになりました。

初めは出会ったばかりの人への声のかけ方や、絵本や紙芝居を読むことに緊張しましたが、毎月行く事で色々な発見や保育園とは一味違った楽しさを感じています。印象的だった事は、何気なく持って行った保育



園では親しみのある『大型絵本』を見て、その大きさに驚き目を輝かせていた子どもたちの姿でした。この事をきっかけに、初めて出会う楽しいものを、をたくさん知ってもらいたいなと思うようになり、今月は何を持って行くかとかワクワクしながら準備をしています。

今はまだつぼみ保育園を知ってもらう事だけで精一杯ですが、いつか地域の方の悩みや何気ない話に耳を傾け共有できる場となればいいなと思っています。

ふじみ保育園

『しいのみ組』

おたのしみ保育

保育士（四歳児担任） 淡路 港介

「大きくなったらしいのみ組のみんで、花火を見たい！」と始まった話し合い。自分たちで相談し決めていく初めての経験に、胸中の思いを言葉にすることは勇気がいります。保育者が小さなつぶやきに耳を傾け、擡り上げることで、自分の言葉がみんなに届く喜びを感じる子どもたち。やってみたいことが次々と上がってきました。「夕方にはお迎えが来ちゃう（だから夜はいやだな）」と心配そうな声が上がっても、みんなで解決策を考える内に少しずつ不安が和らぎ「お迎えを遅くしてね」とそれぞれ家族にお願いして、準備万端です。

エプロンを身に着けてのデザート作り。背中を流し合い、肩を寄せ合って露天風呂で暖まったお風呂屋さん。テラスでランタンを灯しながら食べ



た夕ごはん。あつという間に日は沈み、気が付けば夕暮れです。離れていても伝わるキャンプファイヤーの熱気に頬を赤らめ、夜空に舞い上がる火の粉を眺めれば、暗がりに怯えていたことも忘れてダンスと花火を存分に楽しみ、お迎えに来た家族に満面の笑みでお話しするのです。

誰かが考えてくれた行事に参加するのではなく、自分たちで楽しい時間を一から作り上げた経験は、子どもたちにとって確かな自信となりました。

ほんちよう保育園

『一時保育は』

保育園と地域との窓口

『一時保育の状況』

保育士 伊藤 若代

一時保育担当二年目ですが、様々なご家庭が増えていると感じます。アレルギーや家庭環境にも配慮しながら、園長や主任、看護師、栄養士等園全体で連携を取り見守っています。

十月は次年度の入園を見越した〇〇一歳の登録が増え、一時保育を利用して二歳児が満三歳になり、保育料無償化となる幼稚園に年度途中から入園する状況がありました。

幼稚園や保育園に属していない無園児の母親は孤独感や悩みを抱えていることも多く、七十一%が一時保育等の保育サービスを利用したいと考えているそうです。又、三歳を過ぎての無園児家庭は大きな課題(育児放棄・虐待等)がある可能性も考慮しながら、面談時「ほほえみ子育て広場」を紹介し、園全体で情報を共有し地域の子育て支援に取り組んでいます。

毎日利用児は違いますが、継続利用の子どもたちは、対人関係を築き異年齢の関わりも楽しんでい

ます。保護者から「成長に伴った対応が解らない」等の相談や「成長を一緒に見守って貰えて子育てを楽しめ『産んで良かった』と思えた」というお話もあり、励みになります。

子育てに悩んでいる方が多い現状を受け、一時保育の必要性を感じます。「保護者の心理的・肉体的負担軽減を目的とし、保育所が児童を一時的に預かる保育を実施する」という一時保育の運営方針のもと、今後も市と連携をとり、園全体で取り組んでいきたいと思えます。



ひよし保育園

『おいしいってハッピー』

ひよしっ子のハッピーランチ

主任保育士 寺島 由美

食べる意欲は生きる意欲に繋がる！と職員一丸となって食育に取り組んでいます。その中の一つとしてハッピーランチをご紹介します。毎年、年長クラスの子どもたちが、栄養士と共に三色の栄養素を学びます。「赤の栄養は血や肉、骨を作る」「緑の栄養は体の調子を整える」「黄の栄養は熱と力になる」ということから赤の栄養はどんな食べ物があるのか？緑の栄養の食べ物でどんな給食ができるのか？を学びハッピーランチの献立メニューを考えました。今年度は、赤は唐揚げ、緑はブロッコリーおかか和え・人参しりしり・ミックスフルーツ、黄は焼きおにぎり・ゆかりごはん子どもたちが献



立を決めました。ハッピーランチ当日、年長の子どもたちの献立が調理されお皿に盛りつけられます。どの年齢にも目で見て3色の栄養がわかるようにと赤・緑・黄のカップに入っています。さらに年長の子どもたちは各クラスに献立メニューの発表と、栄養について話しをします。お兄さん、お姉さんの話を一生懸命聞き、見て学び、美味しい給食を食べたいハッピーになる！これがハッピーランチです。合言葉は「おいしいってハッピー！」どのクラスからも笑顔があふれていました。食育はおいしいハッピーに食べること。ひよしっ子の心も身体も元気いっぱい育っていったほしいと思っています。



ハトホーム

『園児交流会』

介護職員 大部 雅治

十月二十五日にふじみ保育園の園児さんによる交流会を開催しました。

コロナ禍になつてからは感染への心配があり、開催できずにいましたが、「少しでも入居者の皆さんが笑顔になる取り組みを…」との事で、ボランティア委員会にて話し合い、「園児交流会」に白羽の矢が立ちました。

お互いのリスクを回避するために、「ガラスサッシ」を利用し、窓越しでのふれあい交流となりましたが、園児さんの歌や踊りの披露を中心にお互いの笑顔が弾けます。

交流が終わつて、入居者の皆さんを部屋へご案内する際も、たくさんの喜びの声が聞けました。

保育園の皆さんのご協力に感謝すると共に、また「あふれる元気」をわけていただくひと時を、ハトホーム一同、心待ちにしております。



第2ハトホーム

『行事、頑張ってます』

施設長 岡野 雅和

令和四年度も終盤となつてきましたが、今年度も新型コロナウイルスに振り回された一年となりました。ご家族やボランティアさんとの交流が制限され、外出も敷地内の散歩程度という状況の中で、第2ハトホームで力を入れているのは施設内で行える行事です。

日々の生活の中で季節を感じてもらえるような壁面の装飾や花火大会や運動会などの大規模行事など職員が通常の業務の中で頑張つて準備をした甲斐あって、ご入居者からは「上手ね」「とても楽しかった」等という声を多数聞くことができました。次の準備への活力となつていきます。



ほんちようケアセンター

『#近所との繋がり』

居宅介護支援事業所管理者 野崎 礼

地域との繋がりを模索していたところ「地域のゴミ拾いに協力してくれませんか?」とお誘いを受けたのが「#護美プロジェクト」でした。十一月五日に一時間ほど、大人から子供までの地域の方々とほんちよう保育園、ほんちようケアセンターからの九名とで総勢二十五名以上が参加しました。本町には商業施設や公共施設があり住宅が多く、川も流れているという土地柄、空き缶やタバコの吸い殻が多いことは想像していましたが、蛍光灯や電化製品、BBQのコンロなどが川に捨ててあったことには驚愕、あまりのゴミの多さに驚きました。#護美プロジェクト

はゴミ拾い以外にも地域の緩い見守りをしていく目的があり、通り返りがりの方々の声の掛け合いで近所の方々との繋がりとなることを実感しました。今後も継続した活動で地域や近所との繋がりを持つた施設になるよう「場づくり」を進めます。



寄附について

左記期間において、御寄附頂いた皆様をご紹介致します。
ご支援ご協力頂き、心から感謝申し上げます。(敬称略)

令和三年四月一日
令和四年三月三十一日

相原弘子、阿久津久代、石塚和子、泉 則子、伊藤次郎、植田 哲、牛山満恵、宇都宮弘子、大谷建興株式会社、小野田陸春、叶 郁子、鎌田ツヨミ、川内 茂、株式会社コスモス医工、株式会社サカエ商事、株式会社トホ、学校法人明治学院、明治学院中学校・明治学院東村山高等学校、岸田晴男、熊澤幸子、黒岩 祐、小池丈夫、小嶋重夫、小松啓一、後藤則子、斉藤商店、佐々木義光、佐藤喜久子、佐藤道雄、社会福祉法人財団東京都同胞援護会、理事長 飯山幸雄、軽費老人ホームA型サンホーム、特別養護老人ホームひかり苑、社会福祉法人白十字会白十字ホーム、社会福祉法人はるび、鈴木玲子、聖心女子学院中高もゆる会、高田千代、高橋良夫、竹下祐機、棚澤里絵、田村 均、手塚真一、當間テラス青葉町、中田朝男、中島早希子、長田皓子、日本体育大学桜華中学校・日本体育大学桜華高等学校、野崎清保、野田敦子、ハトホーム家族会、林 美佐子、パンの店、萌留珠、ふじみ保育園保護者会、

ほんちよう保育園保護者の会、松浦富子、松島クリーニング、武蔵野こどものとも社、村山荘家族会、齋 健太郎、山手クリニック、有限会社楓ファーマシー、有限会社スギモト米店、有限会社高橋米穀店、渡辺 哲、渡部典子(五十音順)

新年のご挨拶

明けましておめでとございます。旧年中は格別のご高配を賜りまして、誠にありがとうございました。本年も宜しくお願い申し上げます。

村山苑一同



表彰状受賞者

次の方々が表彰されました。おめでとうございます。

益々の活躍を期待しております。

- 第七十一回東京都社会福祉大会 東社協会長感謝 社会福祉施設・団体 永年勤続功績者
- 第2ハトホーム 介護職員 高山 裕美
- 第2ハトホーム 看護師 石川 里枝

村山苑が経営している施設

- 〒189-0024 東京都東村山市富士見町2-7-5 法人本部 ☎042-3933-8496
- むらやまえん 生活相談所 ☎042-3133-0301
- 村山荘(救護施設) ☎042-3911-262
- ハトホーム(特別養護老人ホーム) ☎042-3933-7574
- 第2ハトホーム(特別養護老人ホーム) ☎042-3062-2320
- 福祉事業センター(障害福祉サービス事業) ☎042-3995-3636
- ふじみ保育園(保育所) ☎042-3941-9936
- 〒189-0024 東京都東村山市富士見町2-8-2 ●さつき荘(救護施設) ☎042-3962-2244
- 〒189-0024 東京都東村山市富士見町2-2-2 ●つばみ保育園(保育所) ☎042-3993-6400
- 〒189-0014 東京都東村山市本町3-43-1 ●ほんちよう保育園(保育所) ☎042-3999-2100
- ほんちようケアセンター(高齢者施設) ☎042-3999-2102
- 〒189-0032 東京都国分寺市戸倉2-27-6 ●ひよし保育園(保育所) ☎042-8431-0202

あとがき

明けましておめでとございます。いよいよ新しい年がスタートしました。二〇二三年は干支でいう癸卯(みずのと・う)です。十干の最後にあたる癸は、生命の終わりを意味するとともに、次の新たな生命が成長し始めている状態を意味しているそうです。また、卯年は何かを開始するのに縁起がよく、希望があふれ、好転するよい年になると言われています。三年に及ぶ新型コロナウイルス感染症の拡大は私たちの生活に大きな影響を与えました。二〇二三年の卯年は、コロナ禍で経験したことを踏まえ、発想を転換させて、前向きに考え進んでいきたいと決意を新たにしております。皆さまにとりましても良い年となりますよう、ご祈念申し上げます。(Y・S)

― 表紙の写真 ―
「天空の火柱」

提供者 小田 浩之

本誌は本人同意のもとに写真・作品等を掲載しております。

* * *
ご意見・ご感想等お気付きの点がございましたら、左記へお寄せ下さい。

令和五年一月一日 発行
東京都東村山市富士見町二一七―五
社会福祉法人 村山苑
発行者 品川 卓正
印刷所 東京都同胞援護会事業局
東京都墨田区両国四―一―八